

# その声が、 いのちを守る希望になる。

戦争法の強行採決、あの歴史的暴挙から一年。  
安倍政権の暴走は加速度を増し、  
私たちは今、戦後最大の“平和と民主主義の危機”に直面しています。  
総がかり行動実行委員会は、戦争法に反対する1350万を超える声とともに、  
これからもたたかい続ける決意です。

## 市民と野党が政治を動かした。

7月の参議院選挙では市民が主権者として連帯し、  
日本の政治史上初めて野党の統一を促しました。  
そして沖縄・福島では、その力が現職の閣僚を落選させました。  
憲法改正が徹底的に争点から隠される中、  
残念ながら改憲勢力の膨張を阻止するには足りませんでした。  
私たち市民が野党共闘という新しい政治の体制をつくり出しました。

2013年参議院選挙 野党4党で**28**議席 → 2016年参議院選挙 野党4党で**44**議席  
(自民・公明で76議席) (自民・公明で70議席)

## 「殺し、殺される」事態が現実…

### ■ 駆け付け警護

武装集団に他国軍の兵士や国連・NGO職員らが襲撃された際、自衛隊が現場まで駆け付け、武器を使って救出するもので、これまでのPKO法の枠を超えた武器使用の拡大を認めています。

### 「狙撃」「射殺」を前提に

防衛省の内部文書では武装集団に対する狙撃や射殺が前提にされており、「万が一、失敗すれば文民等を死亡させるリスク」まで想定しています。

### ■ 宿营地共同防護

宿营地が襲撃を受けた際、駐留する自衛隊が他国軍と共に応戦するもので、駆け付け警護とともに憲法9条を踏みこじる任務です。

### 直面する“いのちの危機”

2013年末に南スーダンで大規模な武力衝突が発生した際、自衛隊を含む各国部隊に宿营地の警備強化命令が出されました。しかし、その応戦は当時“憲法違反の武力行使にあたる”とされていたため、自衛隊は武器を使用する任務には就きませんでした。しかし戦争法が施行された今、同じことが起きれば自衛隊が武器を使用し「殺し、殺される」事態も現実のものとなります。

# だから今、戦争法の発動を許さず、 廃止を求める声を、もっと。